

## 第2次稲敷市総合計画審議会（第3回） 議事録



日時：平成28年7月1日（金）午後2時から

場所：市庁舎 4階 議会全員協議会室

委員：横須賀徹会長、浅野信行副会長、

伊藤均委員、根本光治委員、篠田純一委員、姥  
貝守委員、野村由紀子委員、青木啓泰委員、田  
丸治委員、篠原秀男委員、岩崎昭一委員、小幡  
保委員、村塚好一、高須行雄委員、諸岡明美委  
員、高木正志委員、埴崎崇史委員、高須晃次郎  
委員、沼崎夕子委員、田村千鶴委員、清野敏秀  
委員

（欠席：若松宏幸委員、柳町政広委員）

内田副市長

事務局：政策調整部長、政策企画課 5名

コンサルタント：3名

### ■議事

- （1）基本構想（案）について
  - 1）基本理念・将来像・基本目標・将来指標・施策の大綱
  - 2）土地利用構想
- （2）基本計画の策定について
  - 1）基本計画構成イメージ
- （3）重点プロジェクトについて
  - 1）重点プロジェクト設定のための検討資料

### ■配布資料

- ・第2次稲敷市総合計画審議会 第3回会議次第
- ・資料 1 第2次稲敷市総合計画基本構想（案）
- ・資料 2 基本計画構成イメージ
- ・資料 3 重点プロジェクト（検討資料）
- ・参考資料1 稲敷市総合計画-後期基本計画「達成度状況調査結果の概要」
- ・参考資料2 第2次稲敷市総合計画審議会（第2回）指摘内容とその対応について
- ・参考資料3 第2次稲敷市総合計画審議会（第2回）議事録

## 1. 開会

事務局：大変お疲れ様でございます。若干時間が早いですが、会議を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、お越しいただきまして誠にありがとうございます。ただいまより第2次稲敷市総合計画審議会第3回審議会を始めさせていただきます。

開会にあたりまして、横須賀会長からご挨拶をお願いいたします。

## 2. 会長あいさつ

横須賀会長：横須賀でございます。前回の委員会から3か月が経ち、新庁舎に移り、違った気分という感じでございます。つい先日、稲敷かぼちゃを食べさせていただきました。どのくらいおいしいのかなと思いながら、GI認証をとったあと初めて食べたものですから、そのまま蒸かして何も味付けをせずに食べたのですが、美味しくてそのまま半分食べてしまいました。やっぱGI認証を取ったことが頭にあって、初めて食べたわけではないのに、今までよりずっと美味しく感じました。それとものGI認証を取って皆さんの力が入って美味しくなったのか。それと同じようなことを感じたのがこの新庁舎です。この建物はGI認証はついてないと思いますが、江戸崎庁舎はちょっと寂しかったというか、それに比べると、この庁舎はちゃんと仕事をしなければならないという感じの空間で、改めて会議できることは、きっと皆さんも良いご意見も出して、10年後の稲敷市を導ける中身になっていくのではないかと思いますので、よろしく願いいたします。

## 3. 改選委員の紹介

事務局：ありがとうございました。議事に入る前に、区長会連合会の会長さんと消防団の団長さんの改選によりまして、審議会の委員の変更がございますので、ご紹介させていただきたいと思います。区長会連合会会長の篠原秀男委員でございます。

篠原委員：篠原と申します。よろしく願いいたします。

事務局：稲敷市消防団団長の村塚好一委員でございます。

村塚委員：村塚と申します。よろしく願いいたします。

事務局：どうぞよろしく願い申し上げます。また、本日、稲敷市議会市民福祉常任委員会の公務研修により、若松宏幸委員、柳町政広委員につきましては、欠席されておりますので、よろしく願いいたします。

## 4. 議事

事務局：それでは、次第に従いまして、議事に入らせて頂きます。議事の進行につきましては、横須賀会長にお願いしたいと存じます。一点ほどお願いがございます。この後、発言・ご質問等がある場合、前のマイクがございますが、押

して赤いランプが付くようになります。押して赤いランプが付いて、マイクが入るようになっておりますので、ご発言するときには押していただいたうえで、ご発言をお願いしたいと思います。それでは横須賀会長よろしく願います。

横須賀会長：それでは、始めさせていただきます。始める前に新任の篠原委員、村塚委員にそれぞれ簡単に自己紹介をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

篠原委員：このたび、東地区の区長会連合会の会長を仰せつかりまして、その後、市の方から稲敷市連合会会長だと言われ、今回こういうかたちになりました。出身は旧東の町田というところで、40年ほどある組織に勤めていまして、今、別のところで務めています。生まれは昭和30年です。よろしく願います。

篠原委員：村塚でございます。前黒田団長から消防団を引き継がせていただきまして、私ごときがそういう器ではないと感じてございますが、皆さんから推薦されまして、微力ではありますが、とりあえずやってみようということで、消防団を引き受けたわけでございます。近年では自然災害とかが全国各地で起きて、遠いところで起きても他人事じゃないような状況になってますので、稲敷市においても常に起こってからでは遅いので、起こる前になんらかの備えという観点で、いくらかでも自分の力がお役に立てればという気持ちで引き受けさせていただきました。

## **(1) 基本構想(案)について**

### **1) 基本理念・将来像・基本目標・将来指標・施策の大綱(資料1)**

横須賀会長：ありがとうございます。前回に引き続きまして、内田副市長にご出席いただいておりますので、よろしく願います。それでは、内容に入りたいと思います。本日の議事でございます「(1) 基本構想(案)について」ということで、これは2つに分けて進めたいと思います。「1) 基本理念・将来像・基本目標・将来指標・施策の大綱」については、前回の審議会でやっていると思いますが、内容について全て事務局のほうからご説明をいただきたいと思います。

#### **<資料確認・事務局より説明>**

横須賀会長：前回に一度目を通していただいている部分もございと思いますが、13ページの基本理念について、ここに出ている案を言うと「市民主体である」という考え方そのものが変わるわけではなく、表現の仕方を変えるくらいかと思いますが、これについてご意見いただければと思います。今日、皆さんの意見を聞いて、今日決める、という話に持っていく必要はないかなと思います。イメージ的に何

か意見があれば言っていただければ、次回までに事務局で揉んでいただいて、決めていきたい。そのために我々として何か意見を述べられればということですが、急に言われても難しいところもあるかもしれませんが、読むと、考え方は皆同じで、市民と行政（市民主体なのか行政中心なのか）、生活と都市基盤（ハードとソフト）という、クロスさせた視点でよく総合計画をどの辺に位置づけられているのかがよくある。行政寄り、ハード寄りというのは20年くらい前の新しい産業をつくっていく鹿島開発みたいな話です。そういう計画だったのが、今は生活、市民寄りの計画が割と多いです。特に、ここ2、3年くらいの計画をみると、生活サイド、市民サイドの表現、計画が多いので、考えようによっては他と同じ方面にいつてしまう可能性もあるのかなと思います。ちょっと気になったので、茨城県内のものは、一応全部見てきました。同じ表現はなかったと思いますが、方向付けは同じようなものが、なんとなくあった。その辺であとは事務局側で稲敷市の類似的な都市だとか、一通りみていただいて、他とまるまる重なるようなものは避けながら、改めてご検討いただければいいのかなという気がします。考え方が違えば、みんなの意見も出しようがあると思いますが、ここの中身は外からの並べ方だけで、基本的な考え方は一緒なので、内部でもう一度検討いただいて、次回、説明をいただけるような流れでよろしいでしょうか。

次に「将来像」について、「ちょっぴり自慢の～」とか、変更案の中にはハートが入っていると、ここら辺はどうでしょうか。何かいただければ事務局も整理し易いかと思います。

篠原委員：基本理念と将来像があって、13年の間に、現況はこうだけでも、こういう目標を立てて進んでいくよ、というみたいな言葉があって、「稲敷市は県内でも東京へのアクセスがよく、県内でも最も都市化が進んだ県南地域にあります」という文章は、何かパラドックスで、ぐずぐずしていてストレートではないような気がします。どうしても東京、首都圏のなかの茨城のなかの県南のなかの稲敷市という部分なんですけど、東京という呪縛を解いて、稲敷市は自然環境とか、霞ヶ浦を東にみて、利根川があって、そういう自然環境を前面に出したような位置づけもあってはいいのではないかなと思います。どうしても東京から車で1時間とか2時間とか、圏央道をどうのこうのとか、どうしても主体なる部分があるので、そういうものも大事なかもしれませんが、自然環境がいっぱいあるというなかで、基本理念を語った方がいいのではないかと、私の個人的な考え方です。

横須賀会長：ありがとうございます。どうでしょうかその他には。ここも一度説明したところなので、今のご意見などをもう一度整理していただければいいのですが、今後、内部的に揉んで整理して次回提案していただくということによ

しいでしょうか。

次に「2. まちづくり基本目標」（14、15 ページ）は前回とそのままです。

「3. 将来指標」（16、17 ページ）は具体的な基本計画につながる部分だと思えますが、大きな5つの柱、それぞれの中に2つの柱とそれぞれの施策ごとの柱が入ってくる構成でございます。ここが足りないとか、ここまで言わなくていいとかあればご意見をいただきたいと思えますがいかがでしょうか。この辺は、次第にある「（2）基本計画の策定について」という項目である程度出てくると思えます。この組合せを場合によっては変えなくてはならないとか、事務局でも中身が固まれば固まるほど、この辺の表現も変わってくると思えますので、基本計画の進行状況に合わせて、改めてご報告をいただくということで進めさせていただきたいと思えます。

## 2) 土地利用構想（資料1）

横須賀会長：それでは、「2）土地利用構想」について事務局よりご説明ください。

<事務局より説明>

横須賀会長：ご意見ございましたら、よろしくお願ひいたします。

篠田委員：生活拠点のところ、「一定のまとまった集落、住宅地が集積する阿波、古渡、浮島、幸田・光葉などの主要地区においては、今後も都市的機能を集約し、地域の中心的な役割を担う地区であることから日常生活の利便性の確保を目指し、生活拠点の充実を図るとともに」とありますが、これは伊佐部とか柴崎とか、他にもあるのですが、何故、桜川だけ出してあるのですか。他のところはちょっと違った取り組みとか考えておられるのでしょうか。

事務局：生活拠点につきまして補足させていただきます。生活拠点は100戸以上の戸数があり、近くに金融機関、郵便局、JA、医療関係があるといった位置付けの中で、これから先も維持すべき地域、あるいはそこにコンパクトなまちづくりをしていくイメージで位置づけてございますので、他に柴崎につきましては地域拠点ということで赤丸で拠点を明示しております。伊佐部については、金融機関などが不足していたと理解しています。

篠田委員：後で詳しく教えていただければと思います。

伊藤委員：オレンジ色のぼかしで示している都市機能検討エリアを2箇所お示しいただきましたけど、どういう地区になっていて、どういう検討していく方向なのか、お聞かせ願ひたいです。

事務局：408号線の北側にありますのは、松山・下君山地区にあります工業開発地域ということで、市の土地になっている土地がある程度まとまってあり、これから開発の可能性があるということで、ぼかして入れてあるという状況です。江戸崎の北側にありますのは、地区としては日本新都市の関係であった土地

のところで、市で土地をもっているということで、今後、開発の可能性のある土地という考え方で、この中に入れているということです。

伊藤委員：土地があって、現在のところ可能性があるという段階で理解してよろしいでしょうか。

事務局：はい。

伊藤委員：特に、具体的な方向性なり、県の許可を取るとかまではいっていないということですか。

事務局：はい。

根本委員：もっとシンプルにできないのかなと思います。やらないことをいろいろ詰めでも、これを見た人は何かしら手を入れてしまうと、専門家などの玄人さんはわかるかもしれないですけど、結局、書くことがないから書いていますか、コンサルが書いてくれたものを行っているか、たぶんそういう状況だと思いますが、もう少し真剣に10年を考えていくといったならば、今言った話だっただけでまったく決断できていない、これから先だっとなかなか難しい状況であろうし、それは方針で述べればよいであろうし、そこに色を染めていくことは、在らぬ誤解を招くし、できないことはやらない、やっていくことをしっかり取り組むといったほうが、いいと思います。先程言った篠原委員の質問もだからなんなのよという話です。その区別と差別はなんなのよということ。それをしっかり答えられないと考えれば、やはりあえてそこは色を染めているだけ。何か書かなくてはいけないということではないと思います。

事務局：委員からご指摘ありましたように、できないことを色塗りするのは避けるべきだと思っております。今回、我々が案としてお示ししているのは、今ある開発可能性があるところとか、一定の集落を、今後10年、20年守っていきたいというところは、こういう位置づけでこのようになります、ということで、あえて色をだして、こういうところを守りたい、こういうところは開発の可能性を残したいと、ということでイメージとして出させておりますので、今の委員の意見等を踏まえながら、さらに精査を加えて、本当にできるもの、残さなければいけないもの、もっとやるべきものというのは、今後、内部でもっと検討させていただきたいと思っております。

内田副市長：確かに、今進んでいない部分もあると思いますが、例えば、君賀地区ですと、工業系の工業団地とか誘致できないか、というような検討や県と一緒に勉強会なんかもしており、そういったことをやろうという検討はしているところです。総合計画というのは、市の一番基本的な計画なもので、これに例えば土地利用構想に位置づけていないとできないという部分もあります。例えば、都市機能検討エリアを今の工業系だけではなく、流通系、住宅系、生産系というかたちで書いてありますが、これが基本となって、調整区域なの

で地区計画を設定したり、いろいろな都市計画の手続きがあるのですが、ここに謳ってないと、いざやる時に進めないという部分もあって、テクニク的な部分なのですが、そういうことで、できるだけ明示して位置づけたいという思いもあるということです。

根本委員：ありがとうございます。まさにそこら辺を説明できないというのが問題かと思えます。そこで説明して理解を求めていくよりは、きちっとそういうことが前面に出てこなくては、まずおかしいだろうし、疑問に思えます。例えば、書いてないですが、「市民の方々が望む」というのは具体的にどういうことを進めてほしいか、稲敷地域、特に江戸崎を考えると、例えばひたち野うしくなんかは、まっすぐ線を引けば15分で行けるような環境、働く場所エリアが拡大されるであろうとか、そういった計画をしっかりとやっていきたいとか、そのたたき台を作っていきたいというのが、こういうところののってきてしかるべきであり、10年前やっている議論と何ら変わらない、10年経って稲敷が変わって、何が良くなったのかと言った時に、これが良くなりましたよ、ここを頑張りましたよ、となかなか言えない状況を10年後に、この計画のもとにこのように良くなりましたと言っていただきたい。そのたたき台を作りたいというのが、ここに集まっている皆さんの考えなんだと思います。なかなかそこら辺が出てこないのが寂しいのかなと思います。副市長がおっしゃるとおりで、全体的にいろいろな計画のなかでこういうものを作っていくというのは、重々承知でやっていくのでしょうか。そのなかでも、こういうものを中に入れていくというのは、重要なのかなと感じています。そのためには、何を役所ができるかを考えていけばいいのかなと思います。そこを踏み込んで考えていただければありがたいかなと思います。できないことは載せないというのは、それによって夢物語で終わるということが、今、そんな時代ではない。お金があるときはいいですよ。今は具体的にピンポイントで皆がそこに向かわせる、皆でその方向に向かうということならば、それこそもっと絞りこみをして、この点とこの点とこの点をしっかりとやりましょうよ、という計画づくりのほうははっきりして良いと思います。見たときに他の自治体とまったく同じならば、何らやったこの労力の甲斐もないのかなと思ってしまいますので、そこを踏まえて作っていただければなと思います。

横須賀会長：それでは他にございますか。今後10年間の可能性を、文字の上で現すのか、図の上で現すのか、両方で現すのか、その辺を変に誤解を受けるものがあるとするれば、文字の上で担保しておくとか、その辺を含めて改めてご検討いただくということで、よろしいでしょうか。

諸岡委員：副市長さんから、総合計画をつくるうえで、とても大切な施策だということがありましたので、一つ言っておきたいことがあります。ゾーン別の土地利

用の地図に文化施策の拠点が入っていないように思います。社会教育施設をつくる重点施策をどこも重点的にやっという事で、入れておいた方がいいのかなと思ひまして、言わせていただきました。教育施策の方はなかなか結果が見えにくいので、予算をつけるのが難しいかと思ひますが、期間の長い政策として、教育施設とかをやっている自治体はとても発展しているので、教育施策、特に社会教育の方ですが、入れていただければと思ひます。

横須賀会長：ありがとうございます。自分の意見も含めて何かありますか。

事務局：ご意見をいただいたなかで、文化政策とか社会教育の拠点を明確に位置づけた方が良くというご理解でよろしいでしょうか。

諸岡委員：はい。

事務局：そこまでの不可能なことではないのですが、今回、新しい庁舎ができた関係で桜川や新利根のほうに地区センターをつくって、公民館であるとか保健センターですとか、国の施設ということで位置づけておりまして、社会教育の充実をさせようとその周辺を一つのエリアとして、今回の計画のなかには取り入れさせていただいております。今いただいた意見を踏まえて、事務局でさらに議論させていただければと思っております。

横須賀会長：今までの意見を活かしていただいて、部長の回答は行政拠点の所だと思ひますが、それを行政拠点と書くのか、市民活動拠点と書くのかで中身も変わってくるのかと思ひますが、そういうことも含めてもう一度ご検討いただくようなかたちで、次回、整理されたものが発表されるということで、進めていただくということでいかがでしょうか。

田村委員：10年前に将来都市構造のイメージを作成していると思ひますが、その時のエリア別が4つに分かれていたと思ひますが、今回は2つということで、10年経って、4つのエリアが一つになっていないイメージがあり、2つにすることで、今度は2つになっていくのかなと。一つになるのは遠いのかなと思ひました。

横須賀会長：きっと10年前は合併前のかたちがそのままきいているので、分割されていたと思ひますが、今度は東と西。前の二つと二つみたいなイメージも無きにしもあらずで、そういうところはもうそろそろ克服しないといけないなど、という意識があつて、2つのエリアの境界線がまっすぐになっているのかなと。今のご意見を含めて、改めて分け方についてご検討いただければと思ひます。それでは次に移らせていただいてよろしいでしょうか。

## (2) 基本計画の策定について

### 1) 基本計画構成イメージ(資料2)

横須賀会長：「(2) 基本計画の策定について」ということで、事務局より説明をお願いします。

<事務局より説明>

横須賀会長：今の説明、この中身をつくるにあたって、資料1「4. 施策の大綱」の16、17ページを3段階の方式で、資料2「基本計画の構成イメージ」の4ページにあるような内容に書換えて整理していきたいという意味でよろしいですか。

事務局：はい。

横須賀会長：中身については具体的にというのは、まだ早いということかと思いたすので、このようなフォームでいいかと言われても、なかなか難しいですよ。考え方として、今までのものよりボリュームを減らして、逆に厚いと棚に入ったままのものになるのを使いやすく頻繁に利用して計画立てた行政を進めていこうという意味合いの説明だったかと思いますが、その辺を含めて、今の説明に対するご質問等があればお願いします。

墳崎委員：質問ですが、説明いただいた具体内容というのは、この資料1「4. 施策の大綱」(16、17ページ)の具体案をどのように考えていくかということですか。

横須賀会長：これを表現するのに、最後はこういうページみたいなかたちで表現するという案だと思いますが。

墳崎委員：そうであるとするならば、資料1「4. 施策の大綱」(16、17ページ)の黒丸の項目はどのように出てきた項目なのでしょうか。

横須賀会長：3段目の項目はどのように整理されてできたのか、という話ですね。

墳崎委員：はい。

事務局：資料1の「4. 施策の大綱」の17ページの黒丸が資料2「基本計画の構成イメージ」の表紙では“1, 2, 3, 4”という数字になってしまいましたが、資料1の17ページの4番の一つ目の菱形の四角の中の2つ目の黒丸「生活を支える公共交通と道路ネットワークの充実」が、資料2の2番に入ってきています。

横須賀会長：黒丸に整理されたのは、どのように整理されたのかということですよ。今までの施策の段階と、今回のものが作り方が違うのか、それともこの部分ではこういう考え方だったので、括り方を変えたいという話があるとか、無いという話ですよ。

墳崎委員：資料1の「4. 施策の大綱」(16、17ページ)にある20個くらいの項目というのは、ある程度具体案が決まっていて、決まっているからこそ20個くら

いに分けたのかなと思っていましたが、今、話を伺ってみると、具体案が決まっていないうイメージがあるので、黒丸というのは、10年前のものを参考にして決められたものなのか、いろいろアンケートをとったものを基にして決めたのか、黒丸をどのように決めたのかを知りたいです。

事務局：以前の総合計画の項目からの漏れがないようにということが一つあると思います。現在は施策の名称なども変わってきておりますので、具体的な施策として、体系を組んでおりまして、体系をまとめて、この表現にしたということです。実はこの下に細かい項目がありまして、それらを統合して、黒丸一つにまとめたという考え方でして、現在、庁内・各課で細かく原案を作っております。そちらが上がってきて、この黒丸の表現がどうなのかというのが、当然出てくると思います。また、そのときに考えさせていただきますので、変更の可能性はあるということで、ご理解いただければと思います。

高須（晃）委員：基本計画の構想イメージということで、これはデザインの一つの案だと思いますが、何でこのデザインにしたのかなと、正直してしまいました。資料1「4. 施策の大綱」（16、17 ページ）の施策の大綱のほうが、見やすくて分かりやすくて、資料2のデザインは弱々しく見えるというか、やるぞという感じには力弱いような感じが受けたという、感想です。

横須賀会長：ありがとうございます。「4. 施策の大綱」（16、17 ページ）だけでは、項目しかみえないので、これを1つずつ説明する構成のイメージということですね。その他ご意見どうでしょうか。

ある程度黒丸の項目が出てきてということは、各課とやりとりがあつて、前の計画の事業評価をして、計画で強化すべき部分などがあつて、項目を統合していつていると思いますが、具体的な中身が出てこないとわからないですよ。作業中だと思いますが、今の事務局の話では、今後、場合によっては、変わる可能性があるという話で、この程度の数に抑えたいということが基本ではないかと思えます。役所の縦割りでちぎっていくと、この倍、3倍にもなってしまうでしょうから、想定としてはこういう範囲の中で、収めたいという想定ですか。

事務局：想定としてこれくらいに収めたいというのは、事務局として考えはあるので、今回審議会の方にお諮りしていますのは、今回の施策の大綱のなかで、一番目に子育て、教育・文化があるという構成をさせていただいたり、2番目が保健福祉であったりとか、そういった大きな項目の出し方について、まず委員さんに、大まかな大綱は今回5つで作っており、細かな施策につきましては、今日のご意見も含めて、今、庁内で各担当が作業していただきまして、次回には具体的な内容も含めて、もう一度ご審議いただくような作業工程で考

えておりますので、その点をお含みいただきまして、今日の議論をお願いできればと思っております。

横須賀会長：資料1の「基本理念・将来像」（13ページ）をどうするかということに最後はかえっていく話ではないかと思えます。中身が固まっていて、この順番だというお話があったのですが、これは、出していただいたのは、委員さん方の順番を変えるというのは意見として、なんとでも言えると思いますが、「みんなでやってみよう」という基本理念のときに、これで言うと5番目「がっちり市民と行政が連携するまち」の市民参加というものが初めにくるのかかもしれないし、素敵なまちというのがメインになっていくのであれば、4番目「わいわい快適に暮らすまちづくり」の話とか、場合によっては子育てとか教育がメインになってくるのかかもしれないし、基本的な理念とか都市像とか、ある程度、整理された中身と大綱がそれにもとづいて説明できるような並びで、ご説明できれば一番いいなと思えますので、その辺を含めて整理をして、次回お話いただければと思います。この順番をどうするの、と言われてもなかなか難しいです。入っていないというのがあれば、言っていただきたい。三番目の安心・安全は、今の傾向としては結構出てくるものです。「安心・安全」とか「子育て」とか、「市民主体」とかが表現されているので、今の傾向はある程度反映されていると思えますが、「基本理念・将来像」（13ページ）を含めて、もうちょっと、筋の通ったというか、はっきりしたほうが、皆さんわかりやすいのかなと思えますので、そういう整理をしていただくのがよろしいのではないかと思います。皆さんいかがでしょうか。それでは、このことについては、ある程度整理がついたところで、お話いただけるということで、進めてよろしいでしょうか。

### **（3）重点プロジェクトについて**

#### **1）重点プロジェクト設定のための検討資料（資料3）**

横須賀会長：「（3）重点プロジェクトについて」入らせていただきたいと思えます。事務局より説明をお願いいたします。

<事務局より説明>

横須賀会長：重点プロジェクトの考え方として、資料3の「重点プロジェクト検討材料」（1ページ）の3つの視点で考えたいというようなことですが、その上の「重点プロジェクトをどう考えるか（検討項目）」ということですと、「基本構想（13年）将来像実現のために先導的に取り組むべき内容」というのが計画で言えばメインだと思いますが、短期的な5年の話を含めてという中において示されているという、この辺は前期計画の話ですよね。プロジェクトとい

って、将来像よりも、もっと先のものをプロジェクトにしたり、どの辺の視点でプロジェクトを組んでいくのか、重点プロジェクトをどう考えるか（検討項目）をみると5年と13年と出てきたりするのですが、その辺をある程度ははっきりさせたほうがいいのではないかなと思います。きっと、具体的に出てくるのは前期計画の話が中心になると思いますが、考えているプロジェクトの行き先は13年後とか、20年先とか次の世代という話だと思いますので、その辺をはっきりさせたほうが良いと思います。わざわざプロジェクトと言っているのは、前に言った基本施策の単なる写し込みみたいな話ではなくて、それを越える話でプロジェクトを整理するわけですから、今の説明だと若干視点がはっきりしない。そういう意味では、安心・安全というのはきっと基本計画のなかで、具体的に出てくる中身がある程度示されているのかなと、思うのですが、3つの柱に加えてくれとか、ここを重点にしてくれとか、ご意見をいただければと思います。

根本委員：重点プロジェクトということで、1つ目に子育て・教育と、市の方向性は良くわかるのですが、隣の龍ヶ崎市では子育て日本一とか、そこまで踏み込んで、徹底的にやっていくというのと比べたときに、どうなんだろうと、非常に抽象的になっていっちゃう。何してこうしてというよりも、そのくらい気持ちで作り込み、お題目をきちっとしていくというのが必要ではないのかなと思います。例えば、「たくましく生きるいなしきっ子プロジェクト」と書いてありますが、市民の方ないし保護者の方が望むことは、徹底的に学力を上げるのを頑張ってくれとか、そういうことだと思います。あと、勉強だけではないので、学ぶチャンスを稲敷は徹底的に与えていくとか、そこらへんまで踏み込んだものの言い方をしていただければ、インパクトがあるかなと思います。産業・定住というと、地元の企業や兼業農家というのはどうなのかというと、一番初めにくるのは新しい新規の地元の方々の支援をするなど、その部分を徹底的にやっていくよという、徹底的というのがないんですよね。安心・安全であれば、安心・安全な地域づくり、まちづくりというのは100個の自治体があれば、100個の自治体が同じことを言うので、もっと踏み込んで言うならば、「命を守るために」とか「しっかり取り組んでいくんだ」というような表し方をしていくのが重要なのではないかと。内容よりインパクトというか、取り組むという姿勢が、役所側が弱いのかなと感じられるので、そこらへんを踏み込んでやっていくことがわかりやすいと思います。各課からあがったのをまとめていくというと、連携していくところが相当できてきます。前の総合計画もそうですが、結局、各課からあがってきたものを整理というと、もう少し上の連携をするところを見せるというのが、必要なのではないかなと思います。例えば、学校のなかで、簡単に言って、先生たち頑張

れよ、と言っても、これは頑張れない状況。ここに生涯学習課が入って行って、違うチャンスを与えたり、学ぶチャンスを与えたり、という展開になってくる。そういうところをしっかりと抑えられるような、多岐にわたり、例えば、地域経済だって、市であれば入札が関わってくるから、そういうところの連携が非常に弱いから、担当課からあがってくるからこの書き方になるわけです。踏み込んでいったときに、連携しているからそのような話になってくるといって、連携まで踏み込んで、もう一歩前に出てくるような作り方をさせていただければと思います。よろしくお願いします。

横須賀会長：基本計画と同じではなく、インパクトのあるもうまとめ方していただきたいという意味ですね。

事務局：今の話について、我々重点プロジェクトの捉え方というのは、5年を目途に考えていまして、5年くらいでできる重点的に取り組む事業ということで考えてはいたのですが、根本委員からもご指摘がありましたように、それだとしても5年でできる範囲のものしか上がってこない、という状況でございますので、5年ではなくて、10年、20年のスパンで本当に取り組むべき事業を見据えて、この5年でやるべきことはかというような、そういった重点プロジェクトの位置づけにしたうえで、食べ物日本一のまちを目指すというようなことが、題目としてあがってくるような、検討をさせていただきたいと思っております。

横須賀会長：その他どうでしょうか。

高須（晃）委員：「たくましく生きるいなしきっ子プロジェクト」の「～多様な教育を展開します」や「地域経済活性化プロジェクト」の「～効果的な活用方を検討していきます」とか、ここに具体的な記述はできないのでしょうか。

横須賀会長：きっと具体的になってくるといいます。重点プロジェクトの内容は「いなしきに住みたくなっちゃう♥プラン（稲敷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略）」の5年間の内容と重なるイメージが非常に強いと思います。「いなしきに住みたくなっちゃう♥プラン」を受けて、というのはいいんだけど、もっと次の世代までという意味合いのなかでのプロジェクトで具体的にこれとこれというのは整理されてくるといいます。ここに書いてあるのが曖昧すぎるから、わかりづらいということで、重点プロジェクトがはっきりしてくれば、そのために当面こういうことをやるよというのが、表記されてくるのではないかと思います。重点プロジェクトは「稲敷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」とダブっていることもあるので、総合計画ではどんな視点で、当面やらなくてはならないことが、次回までに整理されてくれると思います。

高木委員：根本委員のお話にもありましたが、総合計画のなかで、稲敷らしさとか、目

玉商品というのをつくったほうがいいと思います。どこでもやっていることをやっても、目立たないし、他の自治体と、他の自治体と差別化してオリジナリティのある施策を作っていく必要があるかと思います。教育ですと、京都府京都市とか秋田県由利本荘市とかでは、コミュニティスクールを市で推進しています。全国的にそういった施策で有名になりますと、国が主催の委員会とかシンポジウムとか開かれて、そこにたくさんの有識者が集まりますから、市のPRとしても有効だと思います。何か一つ稲敷じゃないとできない、とか稲敷らしさを前面に出した計画を作っていってほしいなと思います。

横須賀会長：ありがとうございます。本筋論に入ってきたと思いますので、審議会の委員の皆さんも同じような意見なのではないかと思います。せっかくだから、稲敷らしさを前面に出したようなもので、まとめたいという考え方があると思いますので、プロジェクトの整理についても、子育て・定住・安心・安全と、どこにでもある中身なので、その中身が特徴があるとか、そういうことですよね。目標が突飛なことというよりは、市民のためにやるとなるとだいたい同じような中身になってくるのだろうけど、さすが稲敷だねとか、稲敷はそういうとこなんだとか、そういう評価が得られる中身がほしいという考え方ですよね。その辺の含みにおいて、次の審議会にご提案いただければと思います。

墳崎委員：重点プロジェクトは、最初の基本目標の5つよりも重点的にやるプロジェクトということではないのですか。それとも、基本目標があってそれと並行して進めていくものなのですか。

横須賀会長：最初にあった、総合計画の5つの柱というのは、全体を5つの柱にまとめたもので、重点プロジェクトはその中でこれはやるんだというものだと思います。他の都市の事例をみると、具体的にもう少し絞った、子育てとか、水・緑だとかに絞った表現で、緑だとしても緑化政策という話だけではなく、緑に係る広い話が入っていて、担当の一つの課の話ではない、それをプロジェクトでまとめていくとか、あとは、地域をプロジェクトにするところもあります。この空き地をどうにかするというのが大きなプロジェクトになっていて、そこに関わる課の施策を入れ込むとか、そういうのも総合計画のなかでは、三大プロジェクトとか、五大プロジェクトとか、他の事例をみると多いと思います。そういう意味ではこれはわりと広い表現なので、5本の柱が3本の柱に見えてしまうのかなと思います。

墳崎委員：重点プロジェクトというのは、そもそもの目的というのは、人口減少を食い止めるためのプロジェクトなのですか。そうではなくて、稲敷らしさとか、観光とか、特化したものを打ち出すための重点プロジェクトなのですか。

横須賀会長：そこは聞いてみないとわかりませんが、これの中での重点プロジェクトなので、10年なり、13年なり、もう少しロングスタンスのなかの13年の基本構想とか、どう実現するための施策でも中心の柱みたいな、そういう考え方だと思います。45年前頃に計画を立てた都市部の有名な計画があります。今後緑が無くなっていくということで、緑が重点プロジェクトに入っているんです。そこは確実に緑が無くなっているんですが、見た目の緑はものすごく増えているんです。その重点プロジェクトがずっとあり、緑なんて、5年、10年で見たい目は良くなるですよ。トータルでは減りますが、見た目の緑というのは、わりと簡単に抑止力といって、壁を緑に塗っちゃえば、緑になるんです。街路樹を多く植えれば、見た目は緑、上から見ると緑は減っちゃっているとか、それが45年経って、どう変化が出たか、はっきり成果が出ている事例です。そういうのが重点プロジェクトなのじゃないかなと思います。そういう視点で出したのだけれど、「稲敷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」の整理があるから、こういうちょっと膨らんだものになっているのかなと思うのですが、その辺も今一度整理をして頂けるのではないかなと思います。

諸岡委員：施策の大綱が5つありまして、重点プロジェクトの話なんですが、3つの重点プロジェクトは優先順位があり、緊急性があり、10年とか長いスパンでみるのではなく、5年くらいで具体的に着手していかなくてはならない重点的なものだと判断できると思います。その中でわかりにくいと言われた資料2「基本計画の構成イメージ」に大分類、中分類、小分類わかれていますよね。重点プロジェクトの1ページ目の子育て・教育のところ、それにつながって出てきているようにつくっていただいているかなと思います。「稲敷市に生まれてよかった」というような、自慢のふるさとプロジェクト、特に自慢ですから、よかったとか、稲敷市はこういうところがいいんだとか、の文言を目指して挙げてくださったのかなと思います。そのためにも、この資料2ページ目のところに「今の稲敷をみると」ということでサンプルが載っていますので、何かデータみたいなものがありますね。恐らくこれをつくるときに、いろいろなデータを収集して今の稲敷市の現状を把握して、それをアセスメント（評価）していったって、その上で具体的な施策というか、それを考えていくイメージなんですが、いかがでしょうか。そういう風に捉えてこれを読んだのですが、現状とかをいろいろアセスメントしないと、具体的なものは生み出せないですよ。

事務局：現状を把握したうえで、考えて計画を推進していくことになろうかと思うので、非常にわかりづらくなっているのだらうと、事務局としても反省しております。基本構想があつて、基本計画があつて、尚且つ、重点プロジェクト

があって、何が重要なのか、少しわかりづらくなっていると思いますので、そこは何故に重点的にやるのかを含めて、もう少しシンプルにまとめたいと思います。重点プロジェクトについては、今回、5年間ということで考えておりましたが、もう少し長期のスパンのなかで、取り組むべき施策を具体的にやれるものを話ができるまで、整理をさせていただいて、次回審議会でお示しできるように事務局内で検討させていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

横須賀会長：その他いかがでしょうか。

岩崎委員：現状は、ものすごい数の人が減っていて、高齢化率が32%。国全体で26.7%なんだけども、稲敷市は32%となっている。その原因は何かというと、人口の流出と高齢化というものがあるわけです。人口の流出は何かというと、若い世代がどんどん市外に流出し、もちろん、同時に子どもの時出て行った人がいるわけですね。稲敷市にとって、これが一番大事なことだと思います。人口をいかに増やすか、その政策を徹底的に考えるということが、一番大事ではないかと思います。それに向かって子育て・教育という一つの視点を検討していくべきだと思います。ここで言っている「笑顔がつながる子育て応援プロジェクト」とか「たくましく生きるいなしきっ子プロジェクト」とか、内容を読むと景気が良いのかなと、若干感じます。重点プロジェクトをやるには、徹底的に現状把握をして、その現状把握をした結果に対応するというような施策を見えていかなければ、なかなか明るい方向が見えないのかなと感じます。人口減少というのは一番大切なことなんだけども、それに対して、人口をどのように増やすかを考えると、農業者の育成の問題も絡みますし、子育てプロジェクトで言えば、給食費の滞納が増えていると、今までは10軒くらいが滞納だったけど、今年は30軒になったという貧困の問題ですね。そういうものもまだまだあると思いますが、そういうものを探ってこのプロジェクトを考えていくということ。3年、5年で解決できるものではないと思います。ここで言えば、10年、13年という長期スパンで考えられるプロジェクトが大事だろうと思います。安心・安全という視点から、高齢者世帯が多くなっています。各地域の民生委員は高齢者にもしものことが何かあったとき、どうするのかと、非常に強い不安を持っています。消防団に特にお願いしたいのですが、防災の面で各行政区、地域内の中で防災訓練を是非やっていただきたいと思います。ごみの収集活動は行政区を挙げてやっていますよね。そういうスタイルで結構ですから、防災訓練の継続を13年間やってもらいたいと思います。2年半くらい民生委員のなかで、災害が起こったときに高齢者をどうするかということで、研修のテーマにしています。その間に常総市のような水害も起きました。そのなかで民生委員たちは駆けずり回りま

したけども、自分の力では一人や数人の人に声を掛けてなんとかするだけ。その代わりに自分の家庭を犠牲にするだけ、そのくらいのことをやっているわけです。2170人で稲敷市で災害が起きたときに同行するということはできないですから、そのために行政区、消防団、子供会、PTAなどいろんな団体があるわけですから、そういうものを取りまとめて、そういう活動ができるような体制を日常的につくってもらいたいと、考えて皆さんと研修をしてきました。

横須賀会長：今の意見を踏まえてプロジェクトの整理を進めていただきたいと思います。その他いかがでしょうか。

高木委員：資料2「基本計画の構成イメージ」の4ページに公共交通について書かれています。バスターミナルの設置、パークアンドライドというキーワードがあります。人口減少が進んでいくと思いますが、その原因というのが若者の都心への人口流出が一つ影響していると思います。自分の友達も東京の方に仕事のためにいる人が多いのですが、東京とのアクセス向上によって少しでも人口減少を抑えることができるのではないかと思います。阿見では工業団地が造られていまして、工業団地に企業がたくさん立地しますと、東京までのアクセスの向上が求められるようになると思います。阿見と東京だけのアクセスではなくて、阿見から稲敷の方に延長させるような高速バスというものもあると思います。延長させて稲敷に来て、稲敷でもバスが利用できるような交通ネットワークの構築というのが必要だと思っております。そのことによって、人口減少の歯止めもかかってくるのではないかと思います。工業団地も稲敷IC中心に開発が進められていくと思いますが、今後、10年、20年、30年先を考えた場合、今の組立て工業を始めとした単純労働の工業は必要なくなると思いますので、これから世界で発展が見込めるのは知識集約型のIT産業を中心とした産業の育成が重点的進めなくてはと思いますので、稲敷市の産業立地においても知識集約的な工業の立地を進めていく必要があるのではないかと思います。

横須賀会長：その他いかがでしょうか。全体をとりはらって、どのようなことでも結構ですので、最後のまとめに入る前にそれぞれご意見があれば言っていただきたいと思います。

高須（晃）委員：今後の会議は、どういったことを話合われていくのでしょうか。

横須賀会長：これからは、今日話したことが、整理されて具体的な基本的な計画や具体的なもので出てきて説明頂けるのではないかと思います。工業団地の話とか、バス路線の話とかご意見ございましたが、もう少しこういった部分は伸ばしてほしいとか、こういう内容を加えてほしいとか、そういう意見を本日述べていただき、次の段階で具体的な話があると思います。そこまでで、答申の

まとめに入るとのことですよね。それで5回目はこれで決めました、という話になると思いますが、肝心なのは今回と次回で、皆さんの意見がどのように整理されるかという流れになってくるかだと思います。今日は大まとめの部分の話で、見えづらい。次回はもっと具体的な話なので、具体的に入っていけば良いと思いますが、今日はどこまで具体的に入っていいか、わかりづらい部分があったかと思いますが、きっとそういう流れになると思います。具体的なものが出れば、それも分かりやすく、何日か前には手元に渡りようになりますよね。ご意見をもって集まっていれば、より精査された中身になってくると思います。

高須（晃）委員：こんな若輩者で、ここに座っているだけでも光栄なんですけど、大きくても、小さくてもいいので、ゴールが見えたら、会に参加して、もっと考えられ、発言できるのかなと、3回目で半分終わっちゃうので、あと2回で、あと何が起こるのだろうと、ちょっと不安みたいなのが、正直あります。なので、ゴールが今の段階から見えると、ほっとするのかなと思います。

横須賀会長：今の時代の流れだと思いますが、基本理念とか将来像もはっきりしないことが多いですよね。ここにあるものを見ても、昔は工業や商業の発展により都市が潤ってほしいみたいな、具体的なことが書いてあったり、文化が中心で表現された時代もありましたし、わかりやすいのがあると良いのだけれど、ゴールが見え難いというのが今の時代なんですかね。具体的に子育てだとか、定住させるとかを出して、それだけでいこうというのは、確かにあります。皆さんがそれしか無いんだとなれば、考え方も変わるかもしれませんが、それだけではなくて、いろんな生活をしている人、全体を考えると何かもわつとせざるを得ないのかなと。

田村委員：娘の社会の教科書を見ていたときに、今から100年前は地球の人口は20億人くらいが、今は70億人まで増えているということで、日本は人口減少が著しいということで、先進国全体が人口減少に悩まされているということで、この間EUからイギリスが離脱した原因が移民問題ということで、実際、日本にも他の国から来ていて、家の近くの工場ですが、中国系の経営者の方が経営をやっていて、80%の社員さんが中国から来た方と聞いて、稲敷に企業が来ても稲敷の人が働けるのは少ないんだと、そこで感じました。誘致も大事かもしれませんが、江戸崎かぼちゃも認定されて有名になりましたし、とうもろこしとか、他の農産物も名産になっているところよりも美味しかったりというものがたくさんあると思います。今度、圏央道ができてアクセスがよくなったので、農産物とか物流関係を活かした産業を何かプロジェクトに交えて作っていったら、食料問題とかも解決できるし、人口減少とかでも働く場所がないからということで、そういうもの解決できるのではないかと思います。

いました。

横須賀会長：ありがとうございます。どうでしょうか他に。

篠原委員：時間が経って皆さん気楽に喋られるようになり、良い意見がどんどん出るようになりました。最初に資料2「重点プロジェクト」を見た時、すごい抽象的で、例えば「地元企業の経営を安定的に促進するために」とありますが、具体的にどうするのかというのが全然ありません。委員から具体的な話が出て、ある程度、人口減少を止めるために、高齢化は寿命ですから、寿命が150年くらいになれば減らないのしょうけれど、若い人の定住を進める。東京からのアクセスで、阿見から圏央道で、成田経由で高速というのもありますし、神崎の道の駅「発酵の里こうざき」から高速バスも出ていて、東地区はあそこから入るとすごい便利になってきます。いろんな席で言うのですが、議員さんもいらっしゃいますので、あえて荒唐無稽な話をします。青木さんも商工会の会長さんにも賛同していただきました。河内町の宮本議員、親戚でもなんでもありませんが、河内町の議会で言ったそうです。圏央道の上に鉄道を通してくれと、議会の中でそのような発言をしたということです。稲敷市の公共交通というなかで、私も圏央道の上にモノレール通すという話を言いました。それくらいのプロジェクトが、ページの片隅でも、あってもいいのかなと思います。いかに定住をさせて、高齢化率を下げて、若い人の魅力がある稲敷に来てくれるか、河内の議会でもそういう話が出たというのであれば、稲敷が県南地区であれ、一緒になって、そういう誘致をするということも大事なのかなと思います。

横須賀会長：ありがとうございます。

清野委員：鉄道の話が出てきたのですが、私の実家がある旧岩間町に常磐線の岩間駅、常磐自動車道の岩間ICがありまして、鉄道は岩間駅に止まるのですが、人口が減り続けておりまして、鉄道があったからといっても難しいのではないかなと思います。

篠原委員：鉄道で首都圏に行くのに2時間以上、3時間以上とかがタイムリミットになってしまっていて、稲敷だと50km圏内で鉄道を通せば1時間くらいで行けるのかなと思います。確かに、北海道とか鉄道があっても過疎になって鉄道が廃止されるというのがありますが、つくばと成田を結ぶとなれば、利便性は高いのかなと。採算性的にどうのこうのと言ったら、全てがあがっちゃうんですよね、そういうことではなくて、プロジェクトのなかで、お題目ではないですが、そういう部分も入れると定住とかが増えるのではないかなと思いますね。

村塚委員：消防団の団員は年々減っております。何を活動するにしても、基本は人です。人がいて、質を高めて地域住民の安心・安全につながるので、基本的には人

口の流出を止めていただきたい。民生委員などが地域のためにどれだけ貢献できるかは、基本には人なので、今後の市の政策のなかでも人をつなぎとめる、市外に出るにしても、無理のない働き場所（アクセスにしても市内からどこでも通えます）というアクセスも重点プロジェクトのなかに入れてもらいたいですね。

横須賀会長：ありがとうございます。他ございますか。

田村委員：アクセスの件ですけど、それはすごく大切だとは思いますが、ただ、学校とかも不便だけど評判の良い学校であると、遠くからでもわざわざ来たりします。稲敷自体が誇れるような市になることが他からも人を呼び寄せるような感じになるのではないかなと考えました。

横須賀会長：ありがとうございます。きっと、究極の目標はそこだと思いますが、その辺が上手く表現できる計画になればいいのかなと思うところですが。

青木委員：ひよんな関わりあいから、50年、60年と詩吟をやっておりますが、稲敷市江戸崎に五百羅漢という珍しい文化物があり、私は子どもの頃から五百羅漢を知ってますから、なんかもったいないと思っていたのですが、水戸の方から見学にくる人たちは江戸崎で何をみるかというとき五百羅漢。世の中の人は、全国的にも世界的にも文化的な面に渴望しているのかね。そう思いました。水のある風景に五百羅漢ということで素晴らしいものです。

昭和31年頃までの牛久は野原だったんですね。それがあれよあれよという間に、市となり、さらに大きくなって、牛久の商工会の会長は年間で人口が600人増えているよ。5年で3000人ですよ、これは本当らしいですよ。いろいろ苦労はあるでしょうけど。願わくは、鉄道でもあればいいのでしょうか。果たして鉄道があったからといって、人口が増えるという環境ではございませんから。

横須賀会長：隠れた資源は、まちをよく探せばあるよということだと思いますので、その辺もみんなが知恵を出せばきっと出てくるのかなと思います。ご意見が特別になれば、まとめていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。事務局で何かございますか。次回の会合の予定を含めて、お話をいただいて閉めていただきたいと思います。

## 5. 閉会

事務局：今後のスケジュールについて、今日のご意見を踏まえながら、7月から9月の間、重点プロジェクトの検討と基本計画の策定作業を進めてまいります。予定としましては、10月中旬ころ審議会の開催を考えています。日程が決定しだい、皆さまに開催の通知と資料を事前に送らせていただきたいと思います。よろしくお願ひしたいと思います。

横須賀会長：それでは、今日の審議会はこの辺で終わりたいと思いますが、発言しづら

かったとか、後でこんなことを気がついたとかがありましたら、折角の意見を発言できる立場ですので、事務局の方に電話でも FAX でもいいのでお伝え  
いただいて、そういうことも含めて整理して、次回まで皆さんのお知恵を授  
かりながら、作業を進められると思いますので、気がついたことは事務局宛  
にということで、どうもご協力ありがとうございました。

以上